

令和5年度 学院関係者評価委員会報告書

中通高等看護学院

令和5年度の自己点検・自己評価結果をもとに、学院関係者評価を実施しましたので報告いたします。

学院関係者評価委員（3名）

実習施設 実習指導者 2名

同窓会代表（卒業生） 1名

令和5年度 自己点検・自己評価に対する学院関係者評価委員のご意見、ご助言、感想等

	意見・感想等
I. 教育理念・教育目的	<ul style="list-style-type: none">・2022年度カリキュラム改正後から法人の理念に基づいた教育理念が掲げられています。当院の看護師要件ともリンクしておりとても良いと思いました。・現在の社会情勢や秋田県の少子高齢化によりこれまで以上に地域社会に貢献できる人材の育成が重要になってくると考えます。そのため明和会の理念を基に教育理念や教育目的が明確に便覧やシラバスに記載されていたので良いと思いました。・新カリキュラムに明記されている教育理念の4つの力について、卒業後も社会人として、看護師として必要なものであり、学生が指針として取り組んでいければと思います。
II. 教育目標	<ul style="list-style-type: none">・教育理念、教育目的と一貫性のある教育目標だと思います。看護学院だけの教育だけではなく、卒業後にも目を向けた目標となっていると思いました。学生観が明確になることにより更に効果的な教育に繋がることを期待します。・教育者と学生双方にとってわかりやすく将来のビジョンが描きやすいと思います。卒業後のキャリア開発ラダーに繋がる内容になっている点も素晴らしいと思います。・新カリキュラムでは「～できる」とゴールが分かりやすくなったことで指導側も目標を明確にしやすくなったと思います。
III. 教育課程経営	<ul style="list-style-type: none">・履修科目は教育理念、教育目的、教育目標との整合性がとれているだけではなく地域社会の現状を捉え、関連する法人の理念に沿った教育体制になっていると思います。・病院としても、卒業後ともに働く学生を育成するという意識を持って指導しているため、手厚い支援を継続していきたいと考えています。・今後の課題として、授業準備のための十分な時間確保や教員の相互研鑽システムが整えばレベルアップや学びの共有に繋がると考えます。・臨地実習の指導をするにあたって、指導者と教員との意見交換や学生の状況報告ができる時間が確保されていたため、協力体制作りがしっかりされていると思いました。

IV. 教授・学習・評価課程	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを明示し、国家試験出題基準に沿った授業が展開されていることがわかりました。教職員の人員不足が改善され、学生が学びやすく、教員にとって働きやすい学院になることを期待します。 ・国家試験を意識した授業内容であり、十分な学習支援ができるよう考えられていると思いました。
V. 経営・管理課程	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な規定、会議により教職員の意思統一が図られていると思いました。教職員のみなさんの学ぶ機会が多くなることは、効果的な学習支援に繋がると思います。ICT教育を推進させ、現代の若者の学びやすい環境が整いつつあると思いますので、今後はハード面の改善・充実により学生確保に繋がれば良いと思いました。 ・学生にも評価の基準が分かりやすく公平な評価が行われていると思います。教員間の協力体制をより具体的な方法で示すことができればこれまで以上の効果的な指導になるのではないかと思います。 ・副教務主任が2名になったことと、分野・領域を複数名で担当することとなり、役割機能がより充実していくと思いました。 ・学生の学習環境、体制、カウンセリングなど、より良い環境で学習、生活できるよう取り組まれていると思いました。
VI. 入学	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーを明確にして入学者選抜方法を検討していることがわかりました。入学者数増加に向けた取り組みが実を結ぶことを期待します。 ・適切に選抜方法を検討していると思います。ホームページ等を活用し、どのように受験者を増やしていくか今後の課題と感じました。 ・受験者、入学者が減少していることがわかりました。入学者選抜方法の検討がされているとのことなので、教育・理念・目的に沿って、引き続き学生の確保を行ってほしいと思います。
VII. 卒業・就職・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの卒業生が法人内に就職しているため、当院のクリニカルラダーで卒業後の進捗状況を共有できることはとても有益だと感じました。 ・卒業後のラダー結果により、学院の教育によってしっかりと教育理念に基づいた能力が身に付いていることがわかりました。是非今後も継続して欲しいです。 ・臨地実習を通して、技術の習得や就職を意識して取り組まれていることがわかり、それが統括されていることがわかりました。その反面で、卒業生の活動・課題が明確にできていないことがわかったので、今後の学生教育、卒業生のキャリア支援につながる調査ができるよう、協力したいと思います。
VIII. 地域社会/国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会と直接的な繋がりを持つには現状難しいと思われませんが、日々の講義の中や実習を通じて学びが深まることを期待します。 ・最近救急外来の受診だけでなく、一般病棟にも外国人の方が入院することもあるため、医療英語、国際看護の授業はとても重要になってくると思っています。 ・臨床実習を通し、地域・社会に退院していく患者の退院支援についての学びを通して、地域、他施設との関りや看護を学ぶ機会に役立ててほしいと思います。

IX. 研究	<ul style="list-style-type: none">・研究活動を助言・指導する体制が不十分なことがわかりました。当院で協力できることがあれば協力していきたいと考えています。・日々の授業や学生指導・対応に追われ十分に研究の時間を確保することは難しいと思われます。研究という枠組みでなくても日ごろの取り組みや成果を発表・共有できる機会があればと考えます。・他の項目に比べ、例年自己評価が低いことがわかりました。授業や実習を主体に教員の方々が学生と向き合うことに時間を割いて取り組んでいる結果なのだと思います。業務体制上、改善するまで時間がかかるとは思いますが、時間的な面でも可能な限り整えていってほしいと思います。
--------	---